



「新世紀ティーンの実現」～20年の歳月を越えて、見えてきたもの～ について

株式会社ワコールは、1964年に人間科学研究所を設立。日本人女性のからだの変化をいち早くとらえ、からだの美を追求するため「より美しく、より健康的に、より快適に」を研究テーマに毎年1000名以上の女性のからだを調査・分析してきました。

この研究はからだの外見の美しさだけでなく、肌ざわりやつけごちといった感覚の計測や、素材とからだの生理的な関係についても取り組んでおり、その成果はワコールのさまざまな商品開発に生かされています。

これまでワコールは、人間科学研究所の研究成果として、時代をリードする美の指標や、体型変化のデータを発表してきました。

- ・ 1965年 日本人女性の理想のプロポーションをあらわした美の指標
「ゴールデンプロポーション」
- ・ 1979年 年代別に実現可能な体型美の目安 「ビューティフルプロポーション」
- ・ 1992年 20代・30代女性の10年前と現在（1992年）の体型と意識の変化を比較したデータ 「エントロピー」
- ・ 1993年 アジア5ヶ国と日本人の祖母・母・娘3代にわたる体型変化の比較と意識調査データ 「アジアン ウーマン ナウ」
- ・ 1995年 からだの美しさはバランスの美しさであることを提唱した、日本人女性の新しい美の指標 「ゴールデンカノン」
- ・ 2000年 16～46歳の間にひとりの女性がどのような体型変化をたどっていくのか、約200名の女性を25年間にわたって調査し続けた結果みえてきた加齢の実現「スパイラル エイジング」

ワコールは、これらからだところに関する研究活動全般を、すべての年齢で楽しく・美しく生活するための「スパイラル エイジング」研究と捉えています。

今回発表いたします「新世紀ティーンの実現 ～20年の歳月を越えて、見えてきたもの」は、20年前と現代のティーンの体型の変化を比較・分析した結果と、現代のティーンと成人女性の体型の違いを比較・分析した結果です。

この結果が20年間という歳月の間、ティーンの何が変わったのか、何が変わらなかったのかの考察の一助となれば幸いです。

なお、今回の“体型分析”に続き“意識分析”も現在実施中で、本年度中に「新世紀ティーンのところとからだについての全体像」について発表させていただく予定です。

新世紀ティーンの実現

20年の歳月を越えて、見えてきたもの

Chapter 1

からだはどう変わったか？

株式会社ワコールは、「ゆりかごからゆりいすまで」こころとからだの両面から女性の生活を応援していく[ボディデザインビジネス]を事業領域としています。その[ボディデザインビジネス]の“コアコンピタンス”の役割を担うのが、ワコール人間科学研究所。設立以来36年間、女性のこころとからだの両面について、様々な切り口でデータを集め、すべての年齢および年代で楽しく美しく生活するためのエイジング研究、“スパイラル エイジング”を追跡調査しています。そして今回、新世紀ティーンの体型を調査し、20年前のティーンおよび成人女性と、新世紀ティーンとの違いを比較・分析し、結果を発表いたします。なお「体型分析」に続き「意識分析」も現在、実施しており、本年中に、新世紀ティーンの全体像(=こころとからだ)についてご報告いたします。

調査概要

株式会社ワコール人間科学研究所と京都女子大学生生活造形学科との共同調査

- 調査期間／2000年8月21日～31日
- 調査対象／[今回収集データ]2000年：10歳～18歳 479名
[比較サンプル]1980年：10歳～18歳 791名
[比較サンプル]1998年～1999年：成人(19歳～23歳)195名



Wacoal
Information

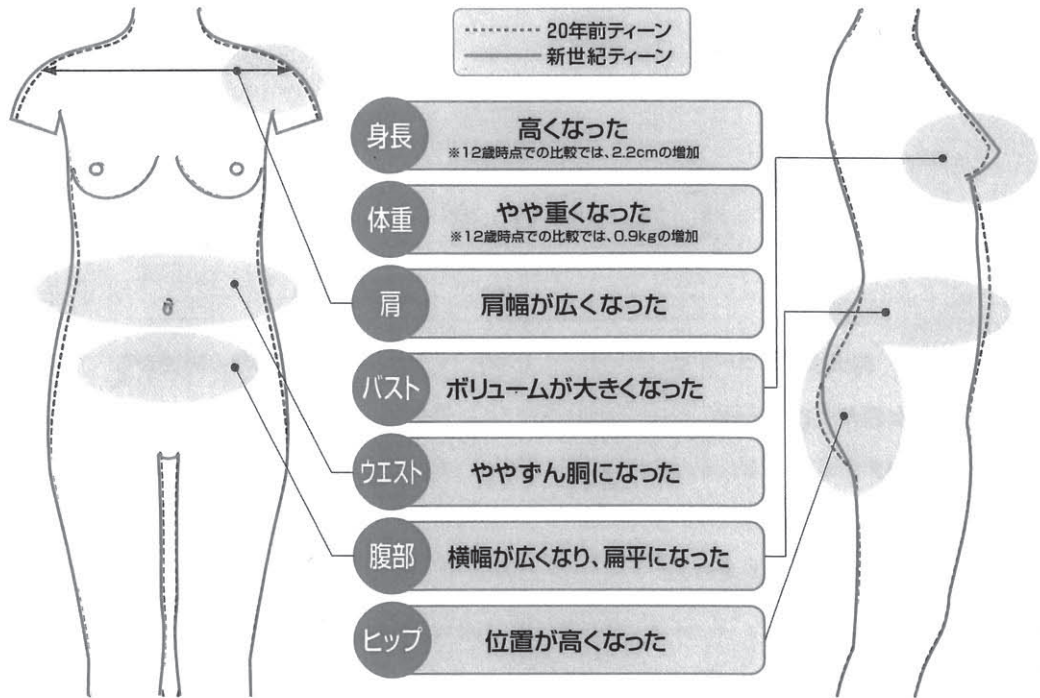
WACOAL CORP.
CORPORATE COMMUNICATION OFFICE

ワコール通信 No.319
2001. 5. 22 発行

どう変わった？ 新世紀ティーン。

20年前のティーンと新世紀ティーンとの比較

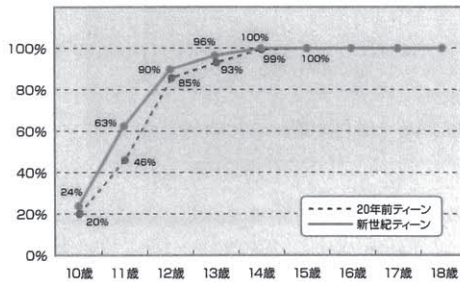
体型を比べてみると…



全体的にはほっそりとしたプロポーションだが、バストは豊かに

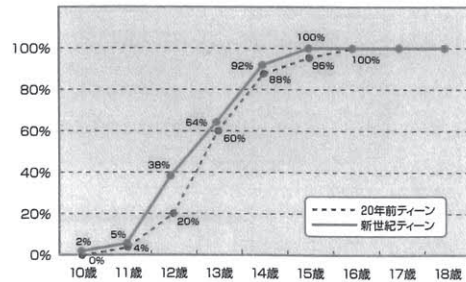
成長の早さを比べてみると…

バストの成長と年齢の関係
バストがふくらみ始めているティーンの割合を年齢毎に集計したもの



特に10~11歳間で、大きな差が見られた

年齢別既婚率
月経が始まっているティーンの割合を年齢毎に集計したもの



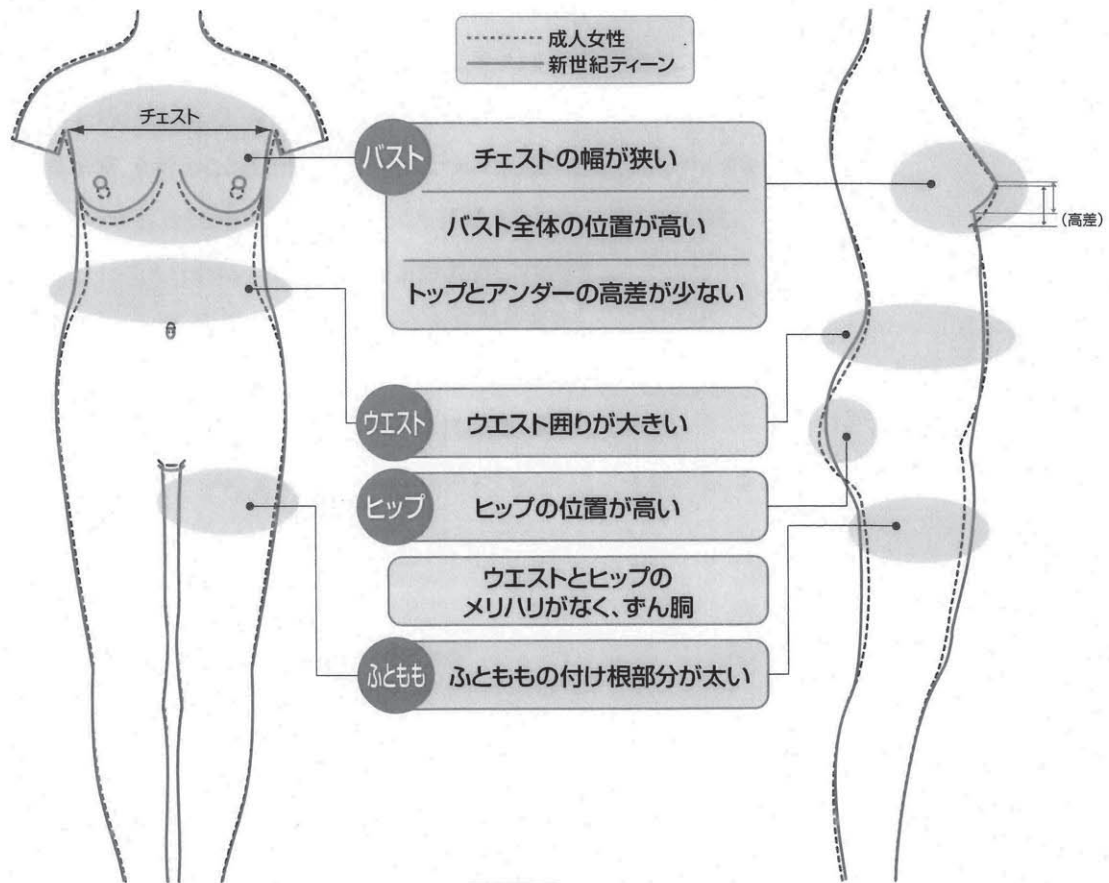
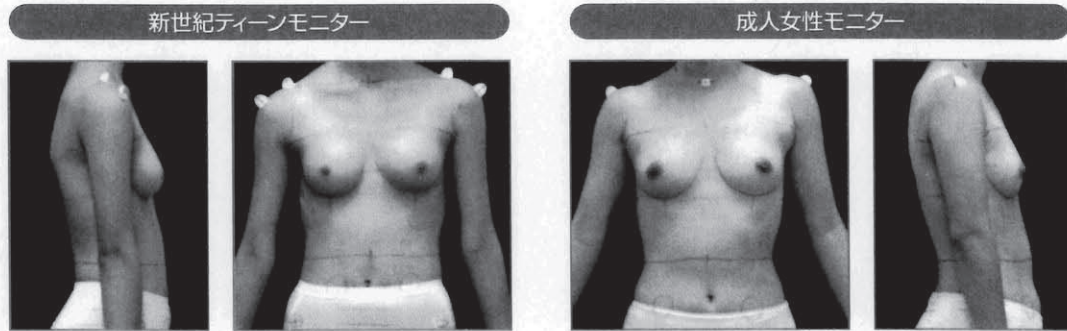
特に11~12歳間で、大きな差が見られた

バストが成長し始める時期も、初潮を迎える時期も早まっている

どこがどう違う？ 新世紀ティーン。

同サイズの成人女性との比較による新世紀ティーンの体型特徴

【ブラジャーはB70、ショーツはMの場合での比較】



ウエストやふとももが太く、ややメリハリのないプロポーションだが、
バストとヒップの位置は高い

20年前とも違う。成人とも違う。
新世紀ティーンには新世紀ティーンのプロポーションがある

ことが裏付けられ、
ワコールでは、より新世紀ティーンに近い下着づくりに取り組んでいます。

1 現在、ティーン専用の下着 [ワコール ジュニア] を開発・販売

(1996年より現在に至る)

バストがふくらみ始めてから、おとなのバストになるまで、
バストの成長の段階に合わせた3ステップで構成。
成人女性用下着とは異なり、ティーンのバストのかたちや特徴に合わせた設計で
バストの成長を妨げません。

- [素 材] 伸縮性にすぐれ、バストをしめつけたり押さえつけたりしないもの
- [ワイヤー] <素 材> やわらかな樹脂など、バストを押さえつけないもの
<かたち> バストのかたちに沿うゆるやかカーブで、
成長に大切な血管などを押さえつけない形状

2 今後、新世紀ティーンの体型に、よりフィットする商品を開発

今回、新世紀ティーンの体型に関する基礎データを獲得

それに基づき、新世紀ティーンの体型にさらにフィットする商品づくりに取り組んでいきます。

なぜ、このような変化が起こったのか？

《服飾造形学からの見解》

京都女子大学 生活造形学科 畠山絹江 教授

●ウエストが太く、ずん胴になった。

- ヒップハンガーに代表されるようなウエストマークしないボトムsの流行や、ショーツ(下着)のウエスト位置が低いことが影響し、ウエストに対しての意識が希薄になってきていると考えられる。

●肩幅が広がった。

- 肩幅は、足のサイズと同様、若い年代においては骨格の大きさがそのまま出る部位であり、身長が高くなったぶん、肩幅も大きくなっていると考えられる。

《ホルモンの影響からの見解》

昭和薬科大学 病態科学教室 田代眞一 教授

- 身長が大きくなる時期は早く、止まる時期が遅い。
- ほっそりと見えるが、バストボリュームは大きくなっている。
- 11歳から12歳の間で、初潮を迎えるティーンが倍増している。(初潮を迎える時期が早まっているとも言える。)

- 最近の栄養状態を考えると、子どもの好きなファーストフードやハンバーグ等、油脂類や肉類の摂取量は減っていない。しかしダイエット等、太りたくないという意識の働きと、運動量の少なさから、一見太っているようには見えないが、筋肉が少なく脂肪の多いからだつきになっていると考えられる。

- 上記のような食生活で増加する性ホルモン、および近年注目され始めた環境ホルモンは、脂溶性であり、体内に脂肪が多いと長く体内に留まることになる。これらのホルモンが、思春期における成長ホルモンや性ホルモンの分泌を、より活発にするため、成長の早さに関する変化が起こっていると考えられる。